

小中学校の再編について

勝山の現状

小学校では成器南・成器西・村岡以外の6校では全ての学級が20人以下。30人を超える学級は4学級のみ。中学校では、総数22学級のうち20人以下が3学級、25人以下が12学級、30人超は4学級。

勝山市ではすでに少人数教育とコロナ対策に適した学級が多い。

委員：再編の議論は新型コロナ以前と以後で大きく変わったが、勝山市ではどう認識しているのか。

理事者：少人数学級を求めていることは確かであり、文部科学省でもその声は大きくなりつつある。しかし、単純に少なければ良いという話ではなく適正な

人数があると思う。例えば学級の子どもの数を減らして学級数を増やすと、その分教師と教室の確保が必要となり、大きい学校が求められる。新型コロナ対策の少人数学級と学校の再編は別と考える。中学校再編の考えに変更はない。

委員：従来とは違った教育により学習成果を出している学校が広まりつつある。例えば広島の場合は、学級を学年ごとに分けるのではなく学年をまたいだ縦割りの学級編成をしている。時代の流れが大きく変わる中で再検討すべき。

理事者：縦割り学級、いわゆるイエナプラン教育等の取り組みは認識しているが、唐突に始めることは難しい。しかし、新型コロナも含め環境が変わっているため、今後作成する再編計画の中で必要と思われる点は検討していきたい。

■ その他、決算委員会で意見のあった内容（一部抜粋）

■ 指定管理者の収益事業の制限の影響と減額に対する対応策（長尾山総合公園管理費）

委員：指定管理者が独自事業で収益増できるように条例改正等を検討すべき。

委員：通年ではなくピーク時だけでもいいので、テント市のような形で実施し、場所代をもらうようにしてはどうか。

委員：上記のような店が増えることで雇用が生まれ、観光の拠点にもなる。町中を巡る起点にしたい。

■ 福祉タクシー利用実績とニーズの検討（障害者施策費）

委員：チケット使用枚数が約1,000枚の実績は、喜ばれていると解釈すればいいのか。

理事者：年度末における次年度分のチケット発行時には、対象者が窓口に殺到するので、喜ばれていると感じている。チケットも以前は市内しか使えなかったが、現在は県内どこでも使えるようになっている。

■ かつやまこども恐竜LABO育成事業の今後の方向性（青少年健全育成計画推進事業費）

委員：行政ではなく勝山恐竜研究会などが主体性を発揮して取り組んでいくことで、今後の発展性に期待したい。